

クローズアップ法科大学院
成蹊スタイルのロースクールを目指して
「自奮自発」の精神が息づく成蹊大学法科大学院

[CONTENTS]

- 2 クローズアップ 法科大学院
- 7 桃李の人々
- 10 創立100周年記念事業募金局からのご報告
- 12 大学の近況
- 14 中学・高等学校の近況／フレンドシップ・コンサート2004開催について
- 16 小学校の近況
- 18 保健管理センターから
- 19 学園トピックス(櫻祭・本林 徹氏講演会)
- 20 学校行事予定(11月～12月)／学園史料紹介

キャンパス内に実る柿





名ロースアツプ 法科大学院

Seikei University
Law School

成蹊大学では、新司法制度の下で新たに設けられた法曹（裁判官、検察官、弁護士）教育の一端を担うべく、本年四月一日に法科大学院（大学院法務研究科）を開校しました。第一期生として、多彩なバックグラウンドをもった気概溢れる七十一名の方が入学しました。今回は、開校後半年が経過した法科大学院にスポットを当て、教員スタッフおよび大学院生の皆さんに法科大学院の現状や今後の抱負などについてお話いただきました。

法科大学院とは

法科大学院とは、「法曹養成に特化した実務的な教育を行うプロフェッショナル・スクール」です。主に法学部を有する全国の有力国公私立大学が設置に名乗りをあげ、今春、六十八校の法科大学院が誕生しました。法科大学院は、法学部出身者だけではなく、他学部出身者や社会人にも幅広く門戸を開いています。修業年限は原則三年ですが、法学既修者については二年制の短縮コースが設けられています。

成蹊大学法科大学院は、働きながら通う社会人向けに、昼間だけでなく平日の夜間と土曜日にも時間割を配置しています。このように昼夜開講を実施し社会人を積極的に受け入れている法科大学院は、全国で三校のみです。

法科大学院設立の背景

法科大学院設立に至った背景として主に次の三点が挙げられます。一点目は、欧米等諸外国に比して極端に少ない法曹人口の大幅増員に対応できる養成制度が必要になったことです。二点目は、企業法務、知的財産権など複雑化・高度化する法的紛争に対応できる専門性を有した法曹の養成が必要になったことです。三点目は、既存の一発試験で法曹候補者選抜を行うことへの危惧から「一点」ではなく「プロセス」としての法曹養成が必要になったことです。法科大学院の設立により、法曹の量的、質的拡充が図られることとなります。

法曹になるには

これまでの法曹養成制度は、司法試験と司法修習から成り立っていました。つまり、誰もが受験できる司法試験に合格し、司法研修所という国の機関で実務家の指導のもと一年半の研修（司法修習）を受け、修習終了時に行われる最終チェック試験（二回試験）に合格すると、法曹資格を得るというシステムでした。

これからは、法科大学院を修了した者に新司法試験の受験資格が与えられることとなります。最初の新司法試験は二〇〇六年度に行われます。（ただし、二〇一〇年までは現行の司法試験と新司法試験が併存します。）

新司法試験に合格すると、現行と同様に司法研修所で司法修習を受け（ただし研修期間は一年に短縮される）、修習終了時に行われる二回試験に合格して、法曹資格を得ることとなります。





司法試験合格と法曹として生き残る競争力。 それこそが法科大学院で学ぶ基礎力。

萩澤 達彦 教授

目指すのは学生の好奇心を
インスパイアする講義

私は民事訴訟法や倒産法などを中心に、二学年三年生の講義を担当しています。今年はロースクール初年度ということもあり、こちらが予測もしなかった事態も起こりましたが、成蹊の場合は教員と学生間の意思の疎通などが比較的うまくいっているためかなんとか乗り切れているように思います。成蹊の特色である少人数制やゆったりとした校風などもあり、教員も学生もなにごとも前向きに考えて努力しているといった印象です。

一回九十分、半期で十五回の授業では教えることのできる知識量には限りがあるので、私としては知識よりもその背後にある本質的考慮を感覚的につかめるような講義を目指して日々取り組んでいます。大人数ではできない双方向性とワクワクするような好奇心をインスパイアする授業ですね。それから先は学生自身が考えて、教員を超えるくらいに自ら主体的に勉強してもらいたいと考えています。ただ、一定の知識は必要なので、授業では二部構成のプリントを配って、一部は当日の授業用の基礎知識、二部は翌週の授業で議論するための教材といった具合に、効率よく、連続性のある授業にするよう心掛けています。来年からは実際に法曹の現場で学ぶエクスターンシップもスタートするので、そのための学力も蓄えなければなりません。

教員と学生が互いに触発し合う
少人数制での学び

学生のレベルに多少の差があるのは仕方のないことですが、学生はみな法科大学院が望んでいるレベルには達していると思います。そんな中で、社会人としての経験も豊富な法学既修者が在学していることが、議論をリードするなど、プラスに展開している面の方が多いと感じています。実際、法科大学院で教えていて刺激的な質問や意見など、ダイレクトな反応が返ってきて楽しいですし、このような意見交換は他の学生にも役立ち、私自身も考えさせられるなど、教員と学生が互いに触発し合うような関係性も生まれてきています。

成蹊の法科大学院は現在、トップクラスの設備環境にあるのではないのでしょうか。法科大学院棟の三階は教員の研究室、二階は学生の自習室やラウンジになっていて、自販機は二階にしかないのですが、何か飲み物などがほしいときには教員は必然的に二階へ降りなければなりません。すると、学生ラウンジで食事や議論をしている学生の輪に自然に加わるというような、よい循環になっています。普通の大学院とは違い、法科大学院には社会的な責務があり、ただ単に学問好きというだけでは通用しません。法学研究とともに、司法試験に合格して実務法曹となるという究極の目的があります。カリキュラムをきっちりこなせば、司法試験に合格できるとは思いますが、なおかつ法曹として生き残るための競争力も必要です。それこそが法科大学院で修得すべき基礎力だと考えています。

成蹊実務学校以来の 「自奮自発」の精神が息づく成蹊法科大学院。

森戸 英幸 教授

**二十三歳から六十七歳まで
多彩な学生が集う法科大学院。**

私は前期に法学未修者のクラスを担当したのですが、昼間クラスは新卒あるいは比較的社会経験の少ない学生が多く、夜間のクラスは社会人が中心で、公認会計士や医師など社会的地位やキャリアをもった人も多いというのが特徴です。

成蹊大学法科大学院は学園の少数教育の伝統を受け継ぎ、一学年の定員は五十名、一クラスも二十〜三十名です。授業も学生との対話を中心に問題を一緒に考えるというスタイルをしています。いわゆる双方向授業です。そうした流れの中で、判例や事件を題材に議論をするのですが、昼間クラスと夜間クラスの違いが出て面白いと思うことがあります。例えば職場でのセクハラがテーマの場合、昼間クラスでは「けしからん」「正義に反する」「かわいそう」などの意見が多く出て、よく言えば純粹、悪く言えばちよっと青い感じもするのですが、夜間クラスの場合は、「会社とはそういうものだ」「会社ではそういう対応にならざるを得ない」など現実的な意見が多かったですね。このエピソードからもわかるように、とにかくいろんなタイプの学生が集まっています。なかには私の中・高校時代の同級生や後輩もいます。上は六十七歳の元外交官から下は二十三歳の新卒の学生まで、いい意味での緊張感があり、教師としても刺激的な授業をやらせてもらっています。

成蹊スタイルを貫けば、 司法試験に合格できる。

ですから、こちらが教えられることも多々あります。また、学生にとってはいろんな意見をもった仲間と勉強できる環境が、司法試験を受験する際にもいい効果をもたらすのではないかと考えています。成蹊大学の出身者が多いわけではないのですが、不思議なもので成蹊らしい雰囲気にならなくなっています。こぢんまりとした環境とこの雰囲気がいいという学生が入学してきているせいでしょうか。

もちろん三年後の司法試験合格に向けて頑張ってもらわなければならない

のですが、ただ試験だけに向けてガツガツしないのが成蹊のよさではないでしょうか。そこには、中村春二先生が設立された成蹊実務学校以来の「自奮自発」の精神、すなわち「自ら気づいて奮起し、自らすすんで学ぶ」という精神が息づいているように思います。実際、二階の自習室で夜遅くまで頑張っている学生をよく見かけます。ロースクールは、法曹という職業に就くための職業学校ですから、最終的には司法試験への合格が最大の目標になります。合格するもしないも本人次第だとは思いますが、成蹊スタイルで頑張れば十分合格できると私は確信しています。





被害者という本当の弱者の声を掬い上げる 検察官の立場から、社会に貢献したい。

大川 晋嗣 さん

成蹊大学時代の恩師に相談し、 法科大学院へ。

中学のときから法律家になりたいと考えていましたが、快樂の犯罪が増えてきた昨今の日本の状況を見て、高校生になって特に検察官になりたいと思うようになりまし。なにより犯罪を憎む気持ちが強いので、犯罪行為を追求し、被害者の声を汲みとることによって社会に貢献したいという気持ちです。その後、成蹊大学の法学部に進学し、二〇〇〇年に卒業。司法試験に向けて自宅で勉強していたのですが、大学でお世話になったゼミの滝口先生に相談し、母校の法科大学院に進んで司法試験合格を目指すことにしました。

刑事手続法の議論では、国家権力と被疑者・被告人という対立軸で考え、弱者である被告人の人権保障を全うしつつ

つ真実を発見しようという形が一般的です。確かにそれも重要ですが、被疑者・被告人の人権保障を重視する反面、本当の弱者である被害者の存在はあまり考慮されません。実際に被害者が手続きに関与できる場面は限られています。私はそんな本当の弱者である被害者の声をしっかりと受けとめ、少しでも社会がよくなるように貢献する。そんな検察官になりたいと考えています。

さまざまな要望に 迅速に答えてくれる。

法科大学院では、少人数制・双方向の授業が中心で、先生も積極的に取り組んでくださるので、非常に満足しています。既修なので、一年次は今まで学んできた知識の確認と新しい知識の修得が主になっています。どの授業も積極的に発言できる空気があり、「生きた教科書」である先生と対話することによって知識の整理ができ、授業が終わった後も先生と学生、学生同士が議論するというような光景もよく見られます。いろいろな経歴・経験をもつ人たちがいて、会話をしてみると、こんな世界、意見もあるんだということがわかって非常に面白いと思います。これは一人で勉強しては得られない貴重な体験ですね。

もちろん、まったく不満がないというわけではありません。しかし、そうした場合でも要望書を提出すれば、すぐに反映してもらえる環境にあるのはありがたいことです。そこには、学生も、教員も、大学院をもっとよくしていこうという意欲が感じられます。また、夜遅くまで勉強することが多いこともあって設備面に関しての要望を出したところ、すぐに実現しました。こうした環境は他の大学院の学生から羨ましがられる点ですね。いつでも学べる二十四時間オープンという制度も魅力だと思います。



少人数で活気があり、発言しやすい雰囲気。 学生の年齢層も幅広く、さまざまな視点から学べる。

中西 陽子 さん

困っている人たちの 役に立ちたくて、 入学を決意。

大学では文学部で学んでいたのですが、卒業後、法律事務所で弁護士の秘書をしていたことが法曹を目指すきっかけです。そして、弁護士になって困っている人たちの役に立ちたいと思い、法律の勉強をスタートしました。現在は、特に企業法務に興味を持ち、主として企業法務に強い人材を育てたいとする成蹊大学法科大学院のパンフレットを見て「面白そう」と思い、受験しました。試験内容も、小論文では問題文の続きを書くといった他の大学院では見られないユニークな問題だったり、口述試験も弁護士や検事は喋ることが重要なので、とても刺激的でした。

成蹊の一番のメリットは少人数の中で学べること。活気があって発言しやすい雰囲気ですし、法学未修者でも議論に参加できるチャンスが多いんですね。また、学生の年齢層も幅広く、さまざまな業種の人たちがいるので、視点の違う意見を聞くことができて面白いです。課題も決って多い方ではないと思います。それだけ自己責任で学ばなければならぬ。どれだけ自分が法曹という仕事に就きたいかが、今後を左右することになるのではないのでしょうか。

教授陣も、施設面も ともに充実。

先生方も個性的で、学者である先生と検事や弁護士経験のある先生では教え方も違います。教科書に沿って授業を進める先生もいれば、ご自分の経験から推論していくスタイルの先生もいます。それぞれに長所があって、多彩な学びが可能なんです。施設面でも、セキュリティが整備されているので、私たち女性にとつては安心です。夜一人で勉強していてもなんら不安がないのがうれしいですね。ロッカーも学生一人ひとりに用意されていますし、「こういうものがほしい」と言えば、すぐに対応してもらえるので助かります。

当面の目標は司法試験に合格して弁護士になることです。企業法務を専門的に学ぶとともに、さらに興味のもてる分野を見つけて、仕事に活かしていきたいと考えています。これからロースクールを目指す人にアドバイスをするとすれば、とにかく何かを始めなければ方向性は決まらないということ。法律だけではなく、いろいろな人との触れ合いの中で新しいものが見つかることもあるでしょう。自ら触れ、経験して、自分に合うているかどうかを、自らに問いかけて法曹を目指してほしいと思います。

桃李の人々

第3回

成蹊学園のOBは、法曹界においても一大人脈を築いています。近年、最高裁判所判事を3名連続で輩出していますし、日本弁護士連合会会長も2期連続で成蹊学園出身者が務めています。その一人、日本弁護士連合会の本林 徹前会長に、成蹊OBが法曹界で強みを発揮している背景などを語っていただきました。

——高校時代から弁護士志望だったのですか。
本林 私は小学校三年から高校三年まで成蹊学園で学びました。当時、成蹊学園では中学から文系、理系のクラス分けを実施していました。物理、化学が好きだったことから、私は理系クラスに所属していました。けれども、いざ受験が迫り、大学・学部を選ぶ段階になって、わが家のルーツを調べてみると、理系人間は皆無だということが分かりました。これはどうも自分には理系のDNAはなさそうだな(笑)。好きなかっただけでは通用しないだろうと思いつき、法学部に進むことにしました。法学部を選んだのは、父が弁護士をしていた影響もありました。

——弁護士をめざそうと考えられたきっかけは何だったのでしょうか。
本林 大学入学後、セツルメント法律相談部というサークルに入りました。このサークルは、関東大震災直後に、民法の大家である末広徹太郎東大教授が、社会救済事業として始められた社会奉仕活動のグループです。私たち学生も、週二回、足立区の小さな診療所に向かい、地域の貧しい方々の無料法律相談を行っていました。学生ですから、まだまだ未熟だったとは思いますが、皆さんとても感謝してくださり、自分の法的アドバイスが多くの人の役に立っているという実感を得ることができました。この活動を通して、弁護士になって、社会的弱者のために尽くしたいという気持ちがかたまっていたのです。今振り返ると、こうした活動に参加しようと考えたこと自体、成蹊学園の教育が影響しているように思います。



アジア弁護士会会長会議での挨拶

——それは、どのような点ででしょうか。
本林 私は、成蹊教育の最大の特色は、一人ひとりを大切に育てる人格教育だと考えています。徳、和を重視して、人格を磨くというポリシーが貫かれているのです。この精神は、弁護士の仕事とも通じるどころがあります。弁護士は、闘う仕事であると同時に、説得の仕事でもあります。誠実に相手の言い分に耳を傾けて、相手の気持ちに配慮しながら説得することが肝心なのです。そうした相手を尊重する姿勢が身についたのは、成蹊教育のおかげだと感じています。受験オンリーの学校だと、他者を押し退けてでもという自己中心的な考え方がちがいますが、成蹊学園は本当におおらかな教育が実践されている気がします。

——国際的な人権問題にも積極的に取り組んでいらっしゃるんですよね。
本林 それも、相手への思いやりを大切にしたいという気持ちの延長線上にある活動です。たとえば、日弁連国際交流委員会委員長の時に、カンボジアなど、アジアの発展途上国の法整備支援活動に携わりましたし、一九九九年に東京で開催されたアジア弁護士会会長会議では、実行委員長として人権特別セッションを設け、アジアにおける人権救済機関設立や、刑事司法における人権について、建設的な議論を交わしてきました。

また、本来は私の専門分野は企業法務なのですが、詐欺にあつてお金を失った人、予想もしない刑事事件に巻き込まれて逮捕された人など、困っている個人の相談にも、一切断らずに応じるようにしています。一般的に、企業法務専門の弁護士は、個人の相談に対してはなおざりになりがちなのですが、私は両立させるように心がけてきました。この姿勢も、成蹊学園で学んだからこそ体得できたものだと考えています。

弁護士の仕事にも通じる成蹊学園の人格教育



本林 徹

Toru Motobayashi

日本弁護士連合会 前会長

相手の気持ちを思いやり、誠実に対応する——
私の弁護士としての基本姿勢は
成蹊学園の教育によって培われたものです

本林 徹 (もとばやし・とおる)

昭和13年宮城県生まれ。成蹊高校卒業後、東京大学法学部に入学。昭和35年、司法試験合格。昭和43年、ハーバードロースクールに1年間留学し、さらに1年間シカゴの弁護士事務所研修。日弁連法曹養成問題委員会委員長、国際交流委員会委員長、副会長などを経て、今年3月まで日弁連会長を務めた。高校、大学でサッカー部に所属していた縁で、日本サッカー協会顧問弁護士、Jリーグ裁定委員会委員なども務めている。



学生時代、サッカーに熱中 その縁で日本サッカー協会の 顧問弁護士などを歴任

— そのほか、成蹊学園の教育で印象に残っていることはありますか。

本林 正門から続く桜並木、櫻並木。武蔵野の素晴らしい緑の環境の中で、実へのびのびと学ぶことができたことですね。中学時代の同じクラスには、産経新聞社社長の清原武彦君や、旭化成元専務の瀬田重敏君などがおり、良き友人たちにも恵まれました。

— 授業で思い出深いのは、農作業の時間です。畑を耕したり、道路を修復したり、動物を飼育したり……。和や徳の精神を、知識として教えるのではなく、自然と触れ合う中で、実践的に体得させるのだという創立者の中村春二先生の理念を反映した、素晴らしい教育の場になっていたと思います。また、凝念や心力歌も、自分を見つめ直す意味で貴重な経験でした。

— クラブ活動はどの部に所属されていたのですか。

本林 高校二年からサッカーを始めました。熱中するあまり、一年間浪人してしまったほどです(笑)。大学でもサッカー部に入学しました。当時のコーチが、日本サッカー協会前会長の岡野俊一郎さんです。前Jリーグチエアマンの川淵三郎さんと試合で戦ったこともあります。その縁で、若いころから、日本サッカー協会の顧問弁護士になりました。その後もサッカーとの関係は続いており、日本サッカー協会の監事や、Jリーグ裁定委員会委員などを務めています。この裁定委員

会は、Jリーグのチーム同士、チームと選手の間などで紛争や問題が生じた際に、調査・裁定する、いわばコミッショナー的な役割を担っています。また、日本サッカーの将来像について建設的な提言をする「賢人会議」的な機能も果たしています。大好きなサッカーの世界に関わり続けられることは、とてもうれしいことですね。

成蹊OBには世界を舞台に 活躍したいという気概がある

— 先生は、海外留学経験があり、国際的な舞台で活躍されてもいます。

本林 成蹊学園は、早くから国際学級に帰国子女を受け入れるなど、先見性に富んだ国際教育を展開しています。その影響を受けて、成蹊OBは、ハーバード大学ライシャワー研究所の日本研究の中心メンバーで、アメリカ歴史学会会長も務めた入江昭教授や、ニューヨーク在住の知財法の専門家である村瀬悟弁護士など、世界を舞台に活躍しようという気概に満ちています。法曹界でも、国際的な業務に携わっているOBが少なくありません。それは、私にとってもいい刺激になっており、負けなようにと頑張ってきたつもりです。同窓のよしみということでも、お世話になった場面も数えきれません。

— 弁護士になられた当初から国際交渉・国際訴訟の仕事が多かったですか。



日弁連と韓国弁護士協会との交流試合(前列右端)

本林 いえ、弁護士になって最初の四年間は国内の仕事ばかりでした。けれども、次第に国際化が進行し、顧問の上場会社で国際的な取引が増えていったのです。弁護士も、日本企業の国際化に対応していく必要があることを痛感し、英会話学校に通い始めました。そして、弁護士六年目に一念発起して、ハーバードロースクールに一年間留学、さらにシカゴの弁護士事務所一年間研修を積みました。すでに結婚して娘もいましたから「子連れ留学」でした(笑)。

— 日本とアメリカでは、教育内容はかなり異なるのですか。

本林 この留学経験を通して、アメリカにおける法曹教育のダイナミックさ、および訴訟を起こしやすく、救済を受けやすくする「市民の武器」の豊富さ(陪審員制度、低額な訴訟手数料、集団訴訟、証拠開示、公民権法など)に感動しました。それが、日本の司法制度を改革しなければならぬという問題意識の出発点にもなっています。

— 実際に先生は、日弁連会長として、

— 次の司法改革に尽力されてきました。なぜ今、司法改革が必要になったのでしょうか。

本林 これまで日本の司法は、裁判官、弁護士、検察官など、専門家の手に委ねられてきました。国民にとって、弁護士に相談するのは敷居が高いし、裁判は時間もお金もかかる。司法全体が遠い

存在だったのです。もともと国民に身近な司法にしていかなければならないとの気運が高まってきたわけです。

また、日本では官僚が絶大な権力を握ってきました。その裁量行政は、外国から見ると、きわめて不透明で、不公正です。このままでは日本は国際社会から孤立してしまいます。「行政による事前規制の社会から、司法による事後救済へ」転換しなければなりません。そのためには、公正で透明なルールによって、迅速に紛争を解決する「司法制度」のインフラを強化し、国民に利用しやすいものにする必要があるというコンセンサスになってきたのです。

—— 現実に、諸外国から日本の行政や司法制度に対して、批判の声が聞かれるのですか。

本林 二〇〇一年に、スイスのビジネススクール「IMD」が、世界の有識者にアンケート調査を実施したことがあります。この調査によると、国の政策決定の透明度で、日本は対象となった四十九カ国の中で最下位でした。衝撃的な結果です。私は、小泉純一郎首相との会談の際に、この調査結果を示して、現状から脱却するためには、司法のインフラ整備が不可欠だと訴えました。小泉首相は、国会で裁判が長くかかることを揶揄する「思い出の事件を裁く最高裁」という川柳



アジア弁護士会会長会議の晩餐会にて(前列左から2人目)

を披露した方です。そこで、私も「官邸の主導で進む諸改革」無駄なくし、血税注ぐ、米百俵」の二つの川柳を作つていき、それになぞらえて話をしました(笑)。せうかく会談の機会を設けてもらつても、インパクトのある話ができなければ意味がないからです。川柳の甲斐もあつてか、小泉首相は、その後、司法改革に積極的に取り組んでくださっています。

—— 司法改革の目玉の一つになっているのがロースクールです。どのような教育を望まれていますか。

本林 国民に身近な司法であるためには、法曹の数自体を増やす必要がありますし、より幅広い分野で活躍できるプロフェSSIONナルの養成も求められます。また、これまでの弁護士は、法廷活動が主体でしたが、今後は、

もつと予防的な役割を果たすために、早い段階から相談に応じる姿勢も大切になります。法曹の資格を持つて、企業で企業法務に従事したり、監査役を務めたり、さらには公務員として立法や政策立案に携わるなど、活躍の場を広げていくことも期待されます。そうした多様な活動ができる人材を養成してほしいと願っています。

—— 成蹊の法科大学院に期待されることはありますか。

本林 二〇〇四年度、一挙に六十八校もの法科大学院が誕生しました。

その中で生き残っていくためには、特色を打ち出すことが求められます。その点、成蹊の法科大学院は、独自性の高い教育を展開しており、頼もしいですね。好調な志願状況を維持しているのもうなずける場所です。とくに素晴らしいのが教授陣容です。ベテランから新進気鋭の若手まで、年齢構成のバランスもよく、活気にあふれています。

また、社会人を積極的に受け入れている点も大賛成です。多彩なバックグラウンドを有する人材が集うことが期待できるからです。ハーバードロースクールに入学した当初、すでに実務経験を持つていた私にとっては、授業で議論されることが破天荒で驚きました。法的な基盤がない学生がほとんどなため、とんでもないことを議論していたからです(笑)。ところが、三カ月もたつと、ピントがあつてくる。

しかも、多様な学問分野を学んだ学生の集まりだし、社会人としての経験も豊富なため、幅広い視点から議論が展開されるようになっていったのです。私はこうした授業こそが、法科大学院で行われるべきものだと思信しており、今後も社会人を積極的に受け入れてほしいと願っています。

—— カリキュラムについては、どのようなご意見をお持ちでしょうか。

本林 成蹊の法科大学院のカリキュラムで特筆されるのは、企業法務、国際関係、知的財産権などの科目が充実していることです。これらの分野は、今後重要度が高まる分野でありながら、従来の日本においてはやや立ち遅

れていたからです。国際性に優れた成蹊教育の伝統を発揮して、特許訴訟をはじめとして、国際的な紛争解決に寄与できる人材が養成されることを期待しています。

「成蹊法曹会」

—— 法曹界で活躍されている成蹊OBも数多くいらっしゃいますね。

本林 近年、最高裁判事を連続して輩出しています。行政法の専門家である園部逸夫・元成蹊大学法学部教授、尾崎行信弁護士、梶谷玄弁護士の名です。これは画期的なことですが、日弁連会長も、私の後任を、同じく成蹊出身の梶谷剛弁護士が務めています。同じ学園から二期連続で会長を輩出することは、かつてない出来事でした。さらに、歴代の日弁連事務総長にも、釘澤一郎弁護士、小川信明弁護士などの成蹊OBが名前を連ねています。

—— 錚々たるメンバーですね。

本林 法曹界に一大人脈を築いているといつても過言ではありません。OB法曹同士の交流も活発で、「成蹊法曹会」を組織して、毎年交流会を開いています。こうしたネットワークが形成されていることは、大きな強みです。ぜひ後輩たちにも続いてほしいですね。私は、成蹊の法科大学院の外部評価委員も拝命していますので、微力ながら、OBの弁護士実務家の一人として、後輩たちの教育に協力していきたいと思っています。

(インタビュアー/広報課 伊藤昌弘)

募金局からのお知らせ

第Ⅰ期寄付者銘板作製準備を開始 ・ご芳名の刻銘文字確認にご協力ください

皆様のご厚志を末永く顕彰させていただくため、本館1階のロビーに寄付者銘板を設置します。

本館は2007年度に改修を予定しており、成蹊学園を象徴する場所として、銘板を掲げるには最も相応しい場所になることと思います。どうぞご期待ください。

成蹊学園創立100周年記念事業募金寄付者芳名

2002年10月1日～2006年9月30日寄付者

法人	団体	個人
〇〇〇〇株式会社	〇〇〇学部同窓会	〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇株式会社	〇〇〇学部同窓会	〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇株式会社	〇〇〇学校第〇回卒業生一同	〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇〇株式会社	〇〇〇学校第〇回卒業生一同	〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇株式会社	体育会〇〇〇〇部	〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇株式会社	体育会〇〇〇〇部	〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇株式会社		〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇〇株式会社		〇〇〇〇 〇〇〇〇

(銘板イメージ図)

- 第Ⅰ期は、募金開始時から2006年9月30日までにご寄付いただいた、全ての法人名・団体名・個人名を刻銘させていただきます。(但し匿名希望の方はご意向に従い取り扱わせていただきます。)
- これまでご寄付いただきました方々には、ご芳名文字の確認のため、近く、ご連絡を差し上げますので、ご回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。
- 上記に併せて、匿名を希望されています方に再度ご確認をさせていただきます。成蹊学園としましては、なるべく多くの方のお名前を顕彰させていただきたいと考えております。ご回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

募金記念をお届けします

募金記念の『金のしおり』(写真)が出来上がりました。

本館と櫛がデザインされた美しいしおりで、スタンドケースに入れてお届けしますので、本棚等に飾っていただくことができます。

なお、これまでご寄付いただきました方には「ご芳名確認お願い」の通知に同封してお届けし、今後のご寄付に対しましては、領収書に同封してお届けさせていただきます。



募金局をお訪ねください & 集金にお伺いします

募金案内で払込方法等をご案内させて頂いておりますが、その他、募金局でも直接取り扱いをさせて頂いております。

是非学園をお訪ねいただき、四季折々に変化する構内をお歩き頂くのはいかがでしょうか。

募金局では、皆様方のお声を直接お伺いいたしたく、お越しをお待ち申し上げております。

また、銀行等に向向くことがかなわない方には、ご連絡いただければ、こちらからお伺いさせていただきます。

(但し、地域を東京から日帰り可の範囲とさせていただきます)

その他何なりとご相談をお受けいたします。どうぞご遠慮なく募金局にご連絡ください。

(募金局TEL : 0422-37-3941)

ご紹介します

募金開始以来、多くの同窓生団体様から募金をお寄せいただき大変感謝しております。

同窓生団体と一口に申ししましても、学校・大学・学部単位同窓会、またその卒年単位同窓会、クラブOB会、ゼミOB会、学校・学年を超えた地域同窓会、職域同窓会等々、様々な形がございます。

その中から、二つの団体をご紹介させていただきます。

戸田建設成蹊会 様

戸田建設株式会社様には、現在25名の同窓生が勤務していらっしゃいます。今般25名様全員が創立100周年記念事業にご理解くださり、各個人名義でご協力を賜りましたと同時に、戸田建設成蹊会様の団体名義でのご寄付も頂戴いたしました。

25名の方々は、北は北海道から西は中国地方まで、また海外はブラジルにまで拡がって活躍されているとお伺いしました。

取り纏めをして頂きました幹事の方々のご尽力に感謝いたしますとともに、25名の皆様に心より御礼申し上げます。

成蹊会千葉支部 様

成蹊会千葉支部(支部長:政治経済学部昭和28年卒業 安田敬一様)は、地域同窓会の中でも大所帯で、3870名の会員数を持つ同窓会です。

毎年7月に総会を開催しておられ、本年の総会には57名の方々がご集まりになられたとお伺いしました。

例年、ご招待を頂き、理事長が出席をさせて頂いておりますが、この100周年記念事業募金活動が始まって以降、深いご理解のもとに、総会の都度、成蹊会千葉支部様の団体名義でのご寄付を賜っております。

幹事の方々のご配慮に心から感謝申し上げます。



修了者数	法学政治学 研究科 (博士後期課程)	2名
卒業生数	経済学部	11名
	工学部	5名
	文学部	12名
	法学部	8名

一号館に名称が改められました。本館と並ぶ学園のシンボルが、どのように生まれ変わるか、情報図書館の完成が楽しみです。

平成十六年度学位授与式
成十六年度学位授与式(九月卒業)が九月二十五日(土)大学十号館十二階ホールで行われました。二十四名が出席し、和やかに式が進められました。修了者・卒業生数は左記のとおりです。

成 蹊大学では、以前から交通事故防止と学園周辺環境維持からオートバイによる通学は原則禁止とし、特別な事情がある場合に限り、許可をいたしました。しかし、交通事故と近隣住民の方への迷惑行為が多発したため、今年度の新入生から年次的に全面的に禁止することになりました。二年生から四年生については特別な事情がある場合、許可される場合もあります。許可された学生については保証人連署の誓約書も提出いただいておりますので、ご協力をお願いいたします。また、自動車による通学・来校は以前より全面禁止しております。

オートバイによる通学全面禁止へ
経済学部教授 坪村 太郎(つぼむら たろう) 工学部教授

成蹊大学学長補佐の新設
十月から大学に学長補佐の制度が新設されました。学長補佐の職務は、学長の指示に基づき、学長の企画立案業務、渉外業務、その他学長の特命事項を補佐することにあります。栗田学長から学長補佐に任命されたのは、次の二名で、任期は二〇〇四年十月一日から二〇〇五年九月三十日までの一年間です。

北川 浩(きたがわ ひろし) 経済学部教授
坪村 太郎(つぼむら たろう) 工学部教授

ハイテク・リサーチ・センター発足

文 部科学省では、私立大学学術研究高度化推進事業の一環としてハイテク・リサーチ・センター整備事業という研究支援を行っている。成蹊大学大学院工学研究科においては、昨年度初めてこの支援を受けるための申請を行った結果、申請した三つのプロジェクトが選定され、二〇〇四年度から五年間この支援を受けることになりました。この支援事業は、最先端の研究開発プロジェクトを実施する研究組織を文部科学省が「ハイテクリサーチ・センター」に認定し、研究開発のために重点的かつ総合的な支援を行うというものです。本年度は全国で十八の大学のプロジェクトが選定されました。成蹊大学では今回、左の三つのプロジェクトを申請しました。工

プロジェクト	研究代表者	研究室数	教員数
人にやさしい次世代無機材料の開発と評価	坪村太郎教授	7研究室	12名
人にやさしい次世代有機・バイオ材料の開発と評価	樋口亜紺教授	7研究室	12名
人にやさしい次世代生活サポートシステムの開発と評価	橋本竹夫教授	5研究室	8名



学研究科に所属する教員が全部で三十二名参加するという大きな規模のものであります。この研究プロジェクトでは、パイオニアから無機材料、そして機械、人間工学までの分野で日頃実績を挙げている研究者が、人にやさしい次世代システム開発を掲げて一丸となつて研究を行うことになりました。特に今回のプロジェクトでは、工学研究科のすべての専攻、すなわち電気電子工学専攻、応用化学専攻、機械工学専攻、情報処理専攻、物理情報工学専攻の研究者を含み、多くの視点からの研究を行うことが大きな特長であり、異なった分野の研究者が集まって議論することのメリットは大きいと考えています。複数の専攻で横断的に研究プロジェクトであるというところは、工学研究科にとっても大きな意義があると考えられます。

講演会のご案内

次のおり講演会を予定しています。いずれも、無料、申込みは不要ですので、みなさん、お気軽にご参加ください。なお、当日は直接会場へお越しください。

成蹊大学秋季公開講座

本学では公開講座として春と秋の年二回連続して講演会を開催しています。今年の秋季公開講座では「子どもたちの心は今—佐世保事件を機に考える」を統一テーマに4人の先生方にお話しいただきます。各回とも時間は13時30分~15時30分です。

第1回 11月23日(火・祝) (3号館303室)
「子どもたちとの関わり方を考える」
文教大学人間科学部教授 神田信彦氏

第2回 11月27日(土) (8号館101室)
「学校現場からの子育て支援」
成蹊小学校教頭 高柴光男氏

第3回 12月4日(土) (8号館101室)
「子どもの攻撃性とその対応」
中央大学文学部教授 横湯園子氏

第4回 12月11日(土) (8号館101室)
「少年非行の現状と少年法の改正」
成蹊大学法学部教授 金光旭氏

清水護英語教育助成資金講演会

毎年、秋季に英語教育に関する講演会を開催しています。今年は「国際語としての英語の学び方—リスニングの科学を中心として—」と題して千葉大学名誉教授の竹蓋幸生氏にお話しいただきます。竹蓋氏はオハイオ州立大学、千葉大学、大阪大学を経て、現在、文学院で研究教育を続けている他、アルク・ヒアリングマラソン(入門・中級)の総監修などを務めています。

11月16日(火) (16時40分~18時20分)
(大学4号館ホール)

学内陸上競技大会 6月2日

学内競漕大会(レガッタ) 6月29日

昨年はいずれも悪天候のため中止となってしまいましたが、今年は天候に恵まれ無事開催することができました。

文 学部現代社会学科では二〇〇五年度より「メディア・リテラシー実習」を新設します。
「メディア・リテラシー実習」とは武蔵野三鷹地域における情報発信の担い手である「むさしのみたか市民テレビ局」、「KISS」、「エフエムむさしの」の三団体の協力を得て、番組制作等を体験し、社会とメディアの関係を学ぶもの

学 園創立一〇〇周年記念事業の一環として、大学情報図書館が建設されます。その建設用地となる大学一号館、二号館の解体工事が十月から始まったのにあわせ、「大学北一号館」が小学校のトンネル山グラウンドに建設され、後期から利用されています。今までは一号館・二号館で行われていた授業が北一号館で行われるようになり、教職課程指導室、学芸員課程室、日本語教員養成課程室、社会調査十課程室も移動しました。また、今までは一号館で行われていた部活動のうち、音楽団体

文学部が来年度より「メディア・リテラシー実習」を開始
今回、大型の研究用機器を七台新たに購入するための資金、毎年の研究費、そして研究支援者のための費用を申請し、これらのすべてについて文部科学省の補助が得られることが決定しました。なお、六月二十三日に成蹊大学ハイテク・リサーチ・センター発足式が行われました。当日はこのプロジェクトに参加する研究室のすべての研究計画がわかりやすく発表されました。

大学一号館から 大学北一号館へ
「KISS」もNPO法人で、豊かなまちをつくるために新たなネットワークを創出することを目指しています。「吉祥寺Webマガジン」で地域の情報を発信するほか、武蔵野市のホームページの制作・管理も担当しています。「エフエムむさしの」は東京都で初めてのコミュニティ放送局として一九九五年に開局され、地域生活情報を発信しています。地域に密着した各団体が学生がより多くのものを学んでくれることでしょう。

学 一号館は一九二七(昭和二年)に竣工し、当時、一階は物理、二階は生物と地質、三階は化学の教室や実験室となっており「理化館」と呼ばれていました。主に旧制高校の授業に使われていました。小学生も一部使っており、その小学生たちが一九三八(昭和十三年)に建てた「供養塚」が今も残っています。また、現在、中学高等学校へ場所を移した「成蹊気象観測所」も当時はこの建物の前に設けられて、今も続く観測が行われていました。大学が開設されてから「理科館」に、文学部開設を機に「大学

動法人(NPO法人)です。地域の様々なテーマについて「月刊わがまちジャーナル」を自主制作し、武蔵野三鷹ケーブルテレビで放送しています。「KISS」もNPO法人で、豊かなまちをつくるために新たなネットワークを創出することを目指しています。「吉祥寺Webマガジン」で地域の情報を発信するほか、武蔵野市のホームページの制作・管理も担当しています。「エフエムむさしの」は東京都で初めてのコミュニティ放送局として一九九五年に開局され、地域生活情報を発信しています。地域に密着した各団体が学生がより多くのものを学んでくれることでしょう。



夏 をしめくくる「水泳大会」で、今年の夏も終わりました。競技でがんばりや結果も、ヒカヒカに磨きあげられた思い出のりんごの味とともに、心を次の生活や学習へとつなげていきます。

九月二十日
すいえたいかいで

(一年 吉田 たかみち)

きうは、一ねんせいのおすいえたいかいでした。みなみぐみのせいせきは、ぜんぶまけました。いっしょうけんめいやつたのに、ぜんぜんかてなかつたので、ぼくは、じょうききかんしゃのように、口からけむりがでるくらい、ほかのクラスに、おこつて、しまいました。もう、ほかのクラスの、おともだちは、つくりたくなくなるほど、くやしかったです。でも、りんごをたべたら、おいしかったので、もう、わすれて、しまいました。らいねんも、がんばります。

「夏の学校」の日々

各 学年の「夏の学校」は名称こそすべてに「夏」という、過去には季節を同じくしていた歴史の流れを名前で継承しています。しかし、今は実施時期がかなり異なっています。

学年によっては「春」「秋」と名づけたほうがよいものもありま

五年生夏の学校(福島県磐梯)

七月十七日～二十日

- 五色沼(昆沙門沼のみ)散策
- 裏磐梯ビジターセンター見学
- 現地農業体験各農家に分かれ
- 琉球焼体験、日新館(赤べこ) または「こけし」の絵づけ、「弓道」または「座禅」の体験
- 松原湖の散策、磐梯山噴火記念館見学 五色沼の散策
- 県立博物館、鶴ヶ城、会津武家



す。今年実施した時期にそつて、今年の夏の学校を振り返ってみます。本当なら子どもたちの表現したもので子どもたちの声で追ってみたいのですが、紙面も限られていますし、詳しくは本校が発行している研究誌「すもも」の特集の中で触れておきますので、お読みいただければと思います。

二年生夏の学校(箱根寮)

五月三十一日～六月三日

- 寮での工作 箱根園水族館見学 きもだめし
- 駒ヶ岳ロープウェイ 神山登山
- 乗風台での遊び
- ◆前半は台風並みの雨風で、昨年に引き続き今年も、乗風台での遊



びが?(一年生のときは「雨」で一度も乗風台で遊ぶことが出来なかつた)と心配されましたが、二日目から徐々に天候は回復に向かい、ほぼ予定の内容を消化することができました。乗風台の緑の芝の上で子どもたちの笑顔が動き回っていました。



六年生夏の学校(千葉岩井海岸)

七月十七日～二十日

- 水泳訓練 すいかわり
- たるまわり(二百メートル→百二十八名完泳)
- 遠泳(千五百メートル→百十九名完泳) 師範との交流会
- 泳力チェック クルージング
- ◆今年の六年生は、四年生の海での水泳訓練を体験した最後の学年でした。



天候にも恵まれ、と言うよりも恵まれすぎて、暑すぎるぐらいの日々が続きました。熱中症や日焼けに気を使いながら、無事に水泳訓練も「遠泳」も終わることができました。



来年からは、海で泳いだことのない(四年生で海に行っていない)子どもたちが参加することになります。時代が変わります。

三年生夏の学校(箱根寮)

七月十五日～十九日

- 大湧谷見学 乗風台での遊び
- 金時山登山 漁協の方の話
- 養魚所見学 地引き網体験
- 鱒の串焼き(野外食事)
- 箱根太鼓の夕べ
- 箱根関所跡 旧街道(杉並木、石畳)を歩く 花火大会



◆天候に恵まれ、ほぼ予定通り「箱根の最後の夏の学校」を終えることができました。暑さと厳しい金時山の登り下りの苦しみに耐え、様々な箱根の地域にあった体験活動を行ってきました。こうして「箱根」の集大成というべき「三年の夏の学校」は終わったのです。



四年生夏の学校(神奈川県三浦市)

九月四日～九月八日

- 磯の生物の観察と採集
- 採集した生物の観察 磯の生物の観察と放流
- 塩づくり オリエンテーリング
- 塩づくりの大釜見学 星の観察
- うどん作り
- ◆近づいてきている台風の影響で、突然の降雨や強風、予定していた「筏づくり」や「荒崎海岸のハイキング」などができませんでした。それでも、悪天候の合間をぬって大部分の予定した活動はできました。自然を満喫できた五日間でした。



一年生夏の学校(箱根寮)

九月二十八日～三十日

- 乗風台での遊び
- 駒ヶ岳ロープウェイ 箱根園 観光船(海賊船、双胴船) 箱根神社
- ◆台風の上陸数が史上最大であった今年を象徴するかのよう、今年最後の「一年生の夏の学校」にも南の方から台風が上陸を伺っていました。幸い、台風のコースは、箱根の山をさけてくれたので、直接の影響はなかつたのですが、今にも雨が降りそうな曇天の日々の中で、どうかすべての日程をこなすことができました。一年生の心の中に、仲間や先生と過ごした楽しい思い出の数々が脳裏に刻み込まれていきました。



成蹊中高における けがの対応

中高では始業式当日から定期健康診断が始まります。その後球技大会、修学旅行、中間テストと学内行事が目白押しとなり、慌ただしい一学期が過ぎていきます。

新入生も五月頃になると学校にも馴れて、色々な不都合を訴える様になり、友人関係のトラブルや無気力、目覚めの悪さ等不定愁訴を訴えて保健室に来室する様になります。

梅雨のうつとうしい気候の変わり目では、体調を崩し、急性胃腸炎などで来室する生徒が増え、保健室のベッドはフル回転となります。こうした状況に対し保健室も生徒に生活態度や周囲の安全に気を配り、体調変化だけではなく不意なけが等にも注意する様に呼びかけています。

一学期の外傷による保健室の利用は四百九十六件（内、授業や部活動以外の怪我は二百七件）で、医療機関受診を要した者は二十九人いました。一学期の約十五週間で、週に二回は医療機関を受診した事になります。予想以上に学校内でのけがは多いのです。

部活動や体育授業中のけがは、瞬間的な受傷により身体へのダメージは大きく、学年が上がるほどけがの状態も複雑となります。

保健室では予防対策の強化と適切な初期対応とによって、出来る

る限り生徒の安全を確保したいと考え努力しております。ご家庭でも、安全への配慮や受傷時の対応等について、日頃よりお子様も交えてお話し頂きますことをお願い申し上げます。万が一に、けがが起こつた場合は、保健室での応急処置後、救急移送など早急に対応させていただきますが、医療機関

によっては治療処置の際、保護者の承諾を必要とするところがありますし、ご家庭によってかかりつけ専門医がある場合もあります。受診先の医療機関を決めにくい状況などもありますので、学校から医療機関へ移送しなければならぬようなけががあった場合、原則として**医療機関の選定を「ご家庭へ相談させていただくこと」にしており**ます。また**病院や学校へお子様のお迎え**をお願いする事があります。お子様のけがや急病の際に必ず連絡が取れるよう、ご家庭で**携帯電話番号等を確認**しておいて下さい。ご家庭と連絡がとれない場合は、学校近辺の医療機関に移送いたしますが、これは応急対応としての受診になり、その後の治療の継続や医療機関の選定についてはご家庭でお決め頂く事となっております。

保健室での外傷初療は最小限のものとならざるを得ませんが、より有効な処置となるよう正確な判

所長の 独り言

櫻井勝

古 いコンピュータのハードディスクで懐かしいものを見た。南水洋を航海したときのデジタル写真である。幾重にも深いファイルの隅で眠っていた。一九九八年の三ヶ月半をオーストラリアの南方、ベリング海で過ごした時のものである。出航はこの時期であった。

その話は突然、教授の「君、ちょっと船医どや？三ヶ月間、南水洋を巡る調査船や」の一言で始まった。寝る間も惜しんで臨床に従事している最中、そんなところへ行って良いのか。しかし、相手は南



断と対応に今後も心がけて参ります。また、予防防ぐことの出来るけがについて、保健室としてのどのようなことが出来るのか、今後の

水洋である。一生の内にそう行けるものではない。この機を逃して良いものか？しかし、皆より臨床が遅れてしまうのではないかという不安のしかかる。決めた。この三ヶ月間臨床から離れる代わり、しこたま本を読んで勉強しよう。段ボール箱五箱にのぼる医学書を詰め込んで、意気揚々と船出に備えた。旅立ちは一月初旬の事であった。海上をよぎる風は冷たく強い。妻や娘達が震える声で「頑張つて来てね」と、私も震える声で「頑張つて来るよ」と答えた。腹に染みる様な霧笛の響きとともに、母港・船橋の岸壁を離れる白い船体。家族と私を結んだ紙テープが一本一本海面に落ちて行く。さすがに胸に熱いものが込み上げてきた。やはり船着き場からの出航は旅愁を誘う。白嶺丸は夕暮れ

とし、灼熱の姿を水平線に沈めようとしていた。やがてその下端は大海原にとけ込み、鮮烈なオレンジが洋上へとこぼれだし支配した。波間は揺れるたびにスパコンールのごとく無数に光輝いていた。空は燃え立つ太陽を囲む紫の帯から、濃厚なサファイヤブルーへとグラデーショナルし、遥か天空には深い闇が待ち構えていた。その息をのむ様な美しさに言葉も出ず、高まる感情から遠く沖合に、何か大きく叫んだのを覚えている。

これから南水洋に向けて出発である。南半球に吠える暴風圏、せまる氷山、ベリング海へ赴くのである。

(つづく)



課題と考えております。

「健康な体」の主人公は生徒自身であることを忘れず、私達中高

保健室はこれからも主人公である

生徒達をしつかりとサポートして

いきたいと思っております。

中高養護教諭 上田郁子

第43回 成蹊大学櫛祭

—11月19日(金)・20日(土)・21日(日)—

テーマ『満 祭』

満足というものは難しく、一人で簡単にできるものではありません。それと同じように祭りも学生や来場者の方々全員が楽しく参加し、初めて満足したものになります。「満祭」というテーマには、皆が心から満足できる祭りにしたいという思いが込められています。

★タレント企画【20日(土) 4号館 時間未定】

今年のタレントは豪華2組! 木村祐一&ペナルティ

兄貴的キャラクターと独特の存在感で熱烈なファンが多い木村祐一さん。ステージを縦横無尽に使うネタで幅広い年代に人気のペナルティ。個々のネタはもちろん、木村祐一、ペナルティのコラボレートが見られるのは成蹊だけ!! 参加無料

★キャンパスツアー【20日(土)・21日(日) 12:00~・14:00~・16:00~】

受験生などを対象に在校生がキャンパスを案内。ここでしか手に入らないプレゼントもあり!

★ビンゴ「世界一周ビンゴツアー(仮)」

【21日(日) 13:30~15:00(開場12:45) 5号館102室】

一風変わった成蹊独自のオリジナルビンゴ、今年のテーマは世界一周。海外旅行をはじめとする豪華賞品を揃え、あなたのビンゴツアー参加をお待ちしています! 参加無料

★子ども企画「つくって遊ぼう! もも広場」

【20日(土)・21日(日) 11:00~16:00 正門入ってすぐの広場】

実験や工作などによる体験型イベント。子供達をドキドキワクワクさせます!

★ケヤキお絵描きコンプリート【全日】

展示教室を回って絵を完成させよう。コンプリートすると豪華賞品がもらえます!

★マッサージ企画【20日(土)・21日(日) 11:00~17:00 3号館601室】

吉祥寺で評判のプロマッサージ師さんによる癒し系企画。プロの技を無料で提供します。コースも部分マッサージ、全身マッサージ、クイックマッサージの3タイプを用意。お客様のニーズに応えます。

★フリーマーケット【全日 正門入ってすぐの広場】

学生、学園関係者が出店します。掘り出し物も多数あり。

★バザー企画【全日 本館前】

吉祥寺で人気のパン屋・花屋が出店! バザーなどが開催されます。

★メイクアップショー企画【19日(金) 5号館102室 時間未定】

プロのメイクアップアーティストが、来場者の方々にメイクの技術を伝授します。基礎知識~実践~応用とステップを踏むことで分かりやすいショーを実現。みんなで参加してメイク上手になりましょう。

実行委員長 経済学部 佐藤 孝洋

<http://www.parkcity.ne.jp/~f-keyaki/>

内容の変更・中止の場合もあります。



本誌7ページから9ページまで本林徹氏のインタビュー「桃李の人々」を掲載しています。こちらもぜひご覧下さい。

成蹊大学5同窓会合同講演会

本年3月本林徹氏(高校6回卒)が日本弁護士連合会(日弁連)会長を退任され、梶谷 剛氏(政治経済学部8回卒)が引続き同会長に就任しました。成蹊学園の卒業生が二代続けての日弁連会長就任は、同窓会としても大いに誇りとするところです。

そこで今回、成蹊大学の5同窓会(政治経済・経済・工・文・法の各学部)が合同で講演会を開催し、本林氏よりお話を伺う機会を得ましたのでご案内いたします。

記

講 師 本林徹氏(高校6回卒業 前日本弁護士連合会会長)

日 時 2004年11月20日(土) 13:30~15:00

会 場 大学8号館2階203教室

演 題 「法化社会」の到来—新しい司法が日本を変える

参加申込 事前の申込は必要ありません。当日会場に直接お越しください。

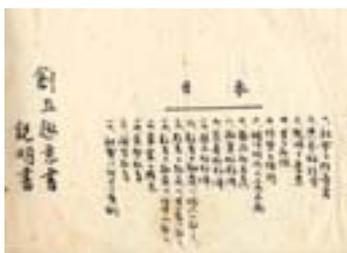
おもな学校行事予定(11月～12月)

	大学	高等学校	中学校	小学校
11月	6(土) A0マルデス入試審査2次審査 (経済学部・法学部・文学部) 7(日) 法科大学院既修者入試 (一般・社会人筆記試験) 13(土) A0マルデス入試合格発表 14(日) 法科大学院既修者入試 (社会人面接) 18(木)～22(月) 櫛祭期間 20(土)・21(日) オープンキャンパス	6(土) 第1回学校説明会 13(土) 第2回学校説明会	27(土) 第3回学校説明会	1(月)～5(金) 新1年入試
12月	22(水) 授業終了 23(木)～1月10(月) 冬期休業 27(月)～1月7(金) 冬期休業 (法科大学院)冬期休業	2(木)～7(火) 期末テスト 18(土) 終業式・保護者会	2(木)～7(火) 期末テスト 17(金) 終業式・保護者会 20(月)～23(木) スキー教室	9(木) 音楽会 22(水) 終業式

■ 12月5日(日)に成蹊学園フレンドシップ・コンサート2004を武蔵野市民文化会館で開催いたします。詳細はP.15をご覧ください。



「創立趣意書 説明書」1911年ごろ



成蹊学園史料館年報

二〇〇三年度

「成蹊学園史料館年報 二〇〇三年度」が発行されました。

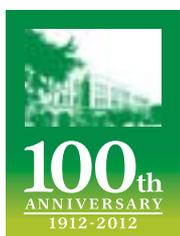
本号の主な内容は次のとおりです。

○ 学園創立の前年一九一(明治四四)年秋ころ中村春二先生が作成した学園最初の学校となる成蹊実務学校の「創立趣意書 説明書」を掲載しました。明治末期の社会の状況を危惧し、その救済は教育によってのみできるとし、実務学校設立の必要性を説いています。学校設立の背景に中村先生の深い思慮と現状認識、社会に対する責任感などが示された重要な史料です。

○ 成蹊学園一〇〇年史編纂事業の一部として実施されている学園関係者のインタビューを掲載しました。本号は清水護氏(旧制成蹊高等学校長)、岩田仁氏(卒業生)、岩崎英二郎氏(卒業生、旧制成蹊高等学校・成蹊大学教員)、鈴木利定氏(卒業生)の四名の方々の聞き取り記録(抜粋)です。文献史料ではうかがい知れない当時の様子を伺いました。

○ 昭和三〇年代後半に成蹊学園史刊行会が行った学園関係者への聞き取りテープが発見され、その内主要なもの概要を掲載しました。
 ○ 研究ノートとして上田祥士氏(卒業生)「成蹊学園創立期の教育者―三浦修吾」と北川浩氏(本学経済学部教授)「岩崎小弥太と実業教育―成蹊との関連で」より「寄稿をいただきました。

本年報をご希望の方は広報課までご連絡ください。



成蹊学園広報

2004年11月10日 発行 学校法人成蹊学園 総務部広報課
 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422)37-3517
 URL <http://www.seikei.ac.jp> E-mail koho@jim.seikei.ac.jp

成蹊学園創立100周年記念事業

新・成蹊創造プラン

記念事業募金のご案内



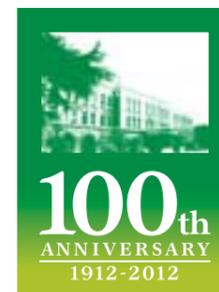
(大学情報図書館完成イメージ)



あなたのお名前を
ここに顕彰させていただきます。

(寄付者銘板設置イメージ図)

(2007年11月本館改修後設置予定)



SEIKEI 学校法人 成蹊学園

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
成蹊学園創立100周年記念事業募金局
TEL 0422 (37) 3941 FAX 0422 (37) 3880
URL <http://www.seikei.ac.jp>

募金対象事業六つの柱

国際化と情報化が進む中、建学の精神を生かして、「個性をもった自立的な人間の創造」を実現するため、学園を挙げて、成蹊教育の新たな創造を目指します。皆様からの「ご支援・ご援助が、ここに生かされます。」

国際教育センターの創設

成蹊学園は創立当初から積極的に国際化を推進してきました。そして今、現代社会が求めるグローバルな視野を持った人材を育成するため、小学校から大学までの学園縦断型組織を設立し、低年齢のうちから一貫した国際理解のための教育を体系的に展開、実践していきます。なお、国際教育センターは二〇〇四年四月に開設され、順調にスタートしました。

大学情報図書館の新設

国際化と共に、情報化を推進するため、多彩な情報機能備えた「知の拠点」となる大学情報図書館を新設します。全学をネットワーク化し、学術文献・図書・資料などの情報が瞬時に利用・発信できるようにします。卒業生の皆様をはじめとして、より多くの方々に「利用いただけるような開かれた図書館を目指しています。」

小学校三十人学級制実施 小学校施設の再開発

「少人数学級を生かした教育の質の向上」を図る教育課程改訂を行い、基礎学力の充実、実践力の育成、個性の伸長を推進します。「ふれあい」と「居心地の良さ」―恵まれた自然環境と空間を活用し、フットリジレント機能に富んだ施設再開発を目指します。

(注 二〇〇五年四月から段階的に二十八人学級制がスタートします。)

この他にも学園創立二〇〇周年に向けて、二〇〇四年四月には「法科大学院」[学科統合による経済学部経済経営学]が開設され、二〇〇五年四月には「工学部を改組した理工学部開設」、二〇〇七年には「学園本館改修」等が予定されています。

中高一貫教育の強化 中学・高等学校施設の再開発

学力の増進と学校の個性化を目指して、中高一貫教育の強化に努めます。IT時代に対応した施設の総合的な再開発を行い、国際化、情報化の時代にあふわしい人材を育成します。

奨学基金の拡充

「個性をもった自立的な人間の創造」に向けて、勉学への真摯な取り組みを励まし、高度な専門性の修得機会の確保や国際交流の促進のため、奨学基金を充実し、学費の支援を図ります。

学園環境整備資金の充実

人格の陶冶・個性の尊重という教育理念は、長年にわたり武蔵野の豊かな自然に育まれてきました。環境の時代に対応した緑化や運動施設の整備をさらに進めて、学園環境の充実を図ります。

募金概要

1	募金の目的	創立100周年記念事業計画に要する資金の調達のため																																
2	募金の名称	成蹊学園創立100周年記念事業募金																																
3	事業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名称</th> <th>事業総額</th> <th>自己資金</th> <th>寄付金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際教育センター運営資金</td> <td>10億円</td> <td>5億円</td> <td>5億円</td> </tr> <tr> <td>奨学基金</td> <td>23億円</td> <td>3億円</td> <td>20億円</td> </tr> <tr> <td>大学施設設備整備資金</td> <td>60億円</td> <td>50億円</td> <td>10億円</td> </tr> <tr> <td>中学・高等学校施設設備整備資金</td> <td>35億円</td> <td>30億円</td> <td>5億円</td> </tr> <tr> <td>小学校施設設備整備資金</td> <td>20億円</td> <td>15億円</td> <td>5億円</td> </tr> <tr> <td>学園環境整備資金</td> <td>10億円</td> <td>5億円</td> <td>5億円</td> </tr> <tr> <td>総額</td> <td>158億円</td> <td>108億円</td> <td>50億円</td> </tr> </tbody> </table>	事業名称	事業総額	自己資金	寄付金	国際教育センター運営資金	10億円	5億円	5億円	奨学基金	23億円	3億円	20億円	大学施設設備整備資金	60億円	50億円	10億円	中学・高等学校施設設備整備資金	35億円	30億円	5億円	小学校施設設備整備資金	20億円	15億円	5億円	学園環境整備資金	10億円	5億円	5億円	総額	158億円	108億円	50億円
		事業名称	事業総額	自己資金	寄付金																													
		国際教育センター運営資金	10億円	5億円	5億円																													
		奨学基金	23億円	3億円	20億円																													
		大学施設設備整備資金	60億円	50億円	10億円																													
		中学・高等学校施設設備整備資金	35億円	30億円	5億円																													
		小学校施設設備整備資金	20億円	15億円	5億円																													
学園環境整備資金	10億円	5億円	5億円																															
総額	158億円	108億円	50億円																															
4	事業費見込額	総額 158億円																																
5	募金目標額	50億円																																
6	募金期間	2002年10月～2012年9月(10年間)																																
7	募金主体	学校法人 成蹊学園																																
8	募金の対象	<ul style="list-style-type: none"> ●法人 金額は特に定めておりません ●個人 [同窓生]1口1万円(なるべく2口以上をお願いいたします) [在学生父母]1口5万円(なるべく2口以上をお願いいたします) [一般]1口3万円(なるべく2口以上をお願いいたします) *金額にかかわらず有難くお受けいたします。 																																
9	免税措置	<ul style="list-style-type: none"> ●法人…全額損金に算入できる指定寄付金制度があります。 ●個人…寄付金が1万円を超えた場合、1万円を超える分(ただし年間所得の25%が限度)について、その年の課税所得から控除されます。 寄付金入金後、本学から送付される「領収書」と「特定公益増進法人証明書(写)」を添えて、確定申告期間に所轄税務署に申告を行い、所得税の還付請求をしてください。 																																
10	芳名録等への掲載	ご寄付をいただいた方全員のお名前を学園からの発行誌にて順次発表させていただきます。また「成蹊学園創立100周年記念事業募金寄付者銘板」(本館ロビー設置予定)にのし、末永く顕彰させていただきます。(匿名希望者はこの限りではありません)																																

お申し込み・お払い込みについて

別紙書式を切り取ってご使用ください。

ご希望の払込方法 ①～③	①	②	③
	郵便局ご利用	銀行振込ご利用	自動振替ご利用
概要	郵便局にて一括払い	銀行にて一括払い	指定口座から引き落とし (詳細は指定口座自動振替のご案内をご覧ください)
お申込み 及び お払い込み	申込書(A)にご記入いただき学園にご送付いただくと共に、振込用紙(B)にて郵便局窓口からお払込みください。	申込書(A)にご記入いただき学園にご送付いただくと共に、振込用紙(C)にて銀行窓口からお払込みください。 (自動振込機のご利用はご遠慮ください)	申込書(A)及び振替依頼書(D)にご記入いただき学園にご送付ください。
払込手数料	不要。(学園負担)	振込用紙に記入してあります取りまとめ銀行の本・支店からお振込みの場合は不要です。	不要。(学園負担)
送付用封筒について	申込書(A)を切り抜き、中折りにしますと送付用の封筒になります。 糊づけをして封をし、そのままご投函ください。 自動振替をご利用の方はその中に振替依頼書(D)を必ず同封してください。		

募金対象事業計画スケジュール(予定)



奨学基金の拡充・学園環境整備資金の充実